資料2-3

空き家対策の課題について

空き家対策の課題について

所有者の意向調査（令和６年度）からみえること

○　令和３年３月に策定した第２次春日井市空き家等対策計画が令和７年度に期間満了を迎え、これを改定するにあたり、空き家の管理状況、将来の利活用の意向や解消されない要因等などを把握し今後の施策検討の基礎資料とするためにアンケートを実施

【実施期間】　令和７年２月21日～３月14日

【結果】

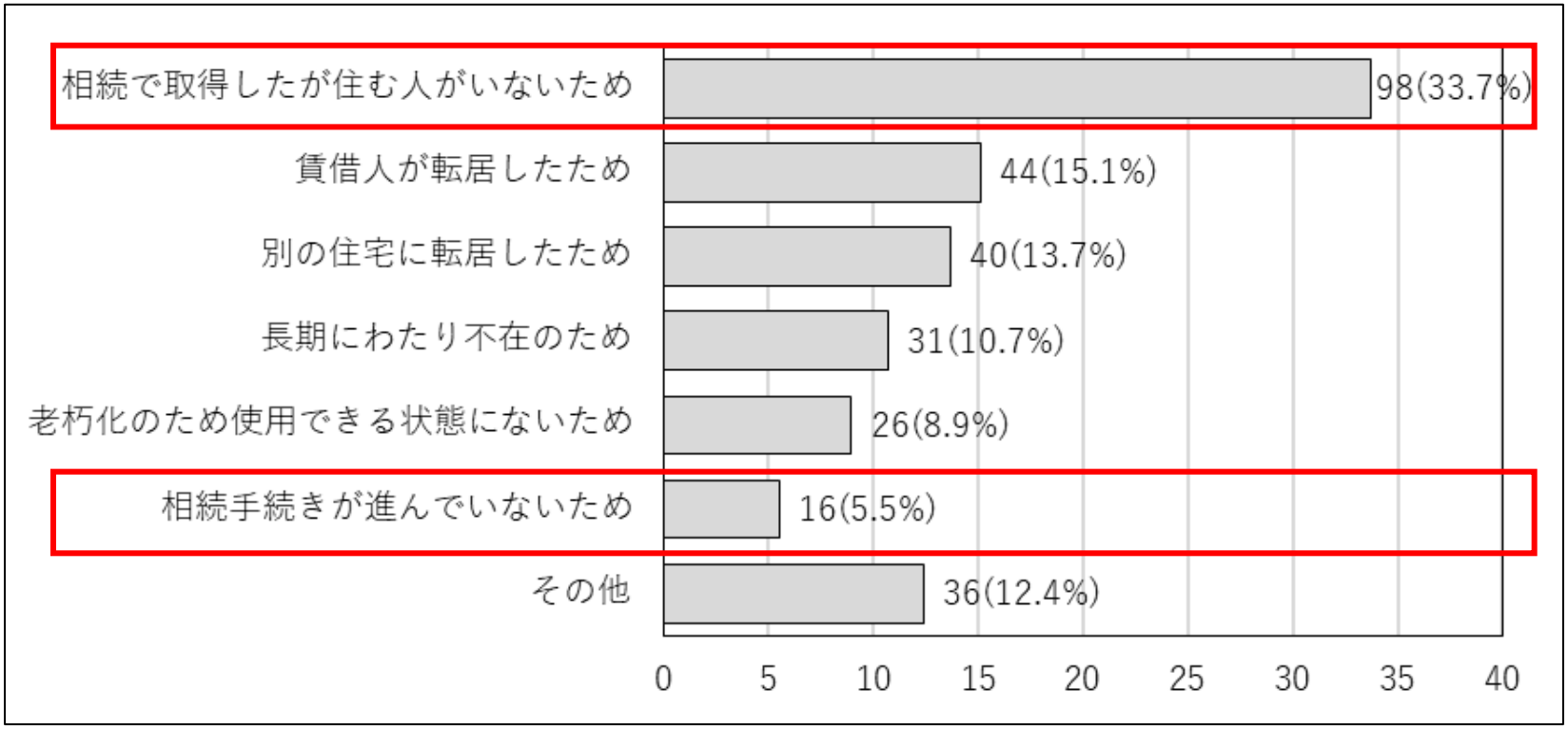
対象数	回答数
1758	752 （42％）

空き家対策の課題について

① 建物を使用しなくなった理由

○ 「相続で取得したが住む人がいないため」が全体の約３分の１を占めている。

○ **相続関連の理由が４割**で、相続が空き家発生の大きな要因となっている。

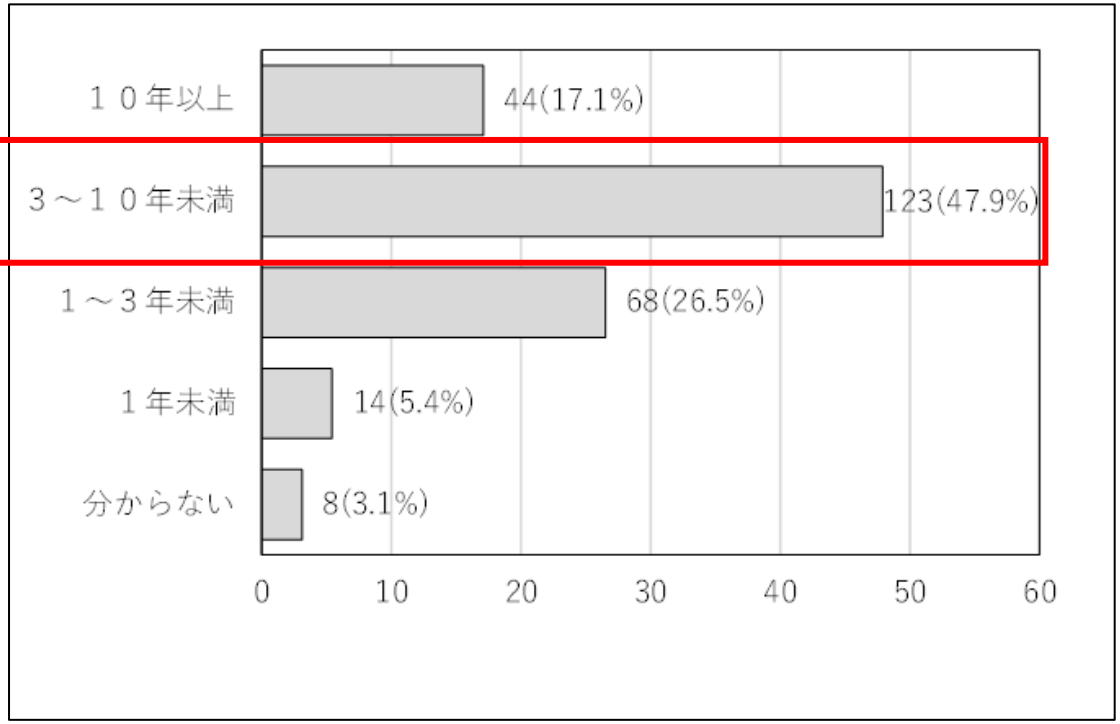


空き家対策の課題について

② 空き家になってからの年数

○ 使用しなくなった期間は**「３～１０年未満」**が最も多く、全体の約４割を占めている。

○ 相続発生後に所有者が明確でないまま放置されていたり、活用方法を模索する**『保留期間』の状態にある物件が多い**。

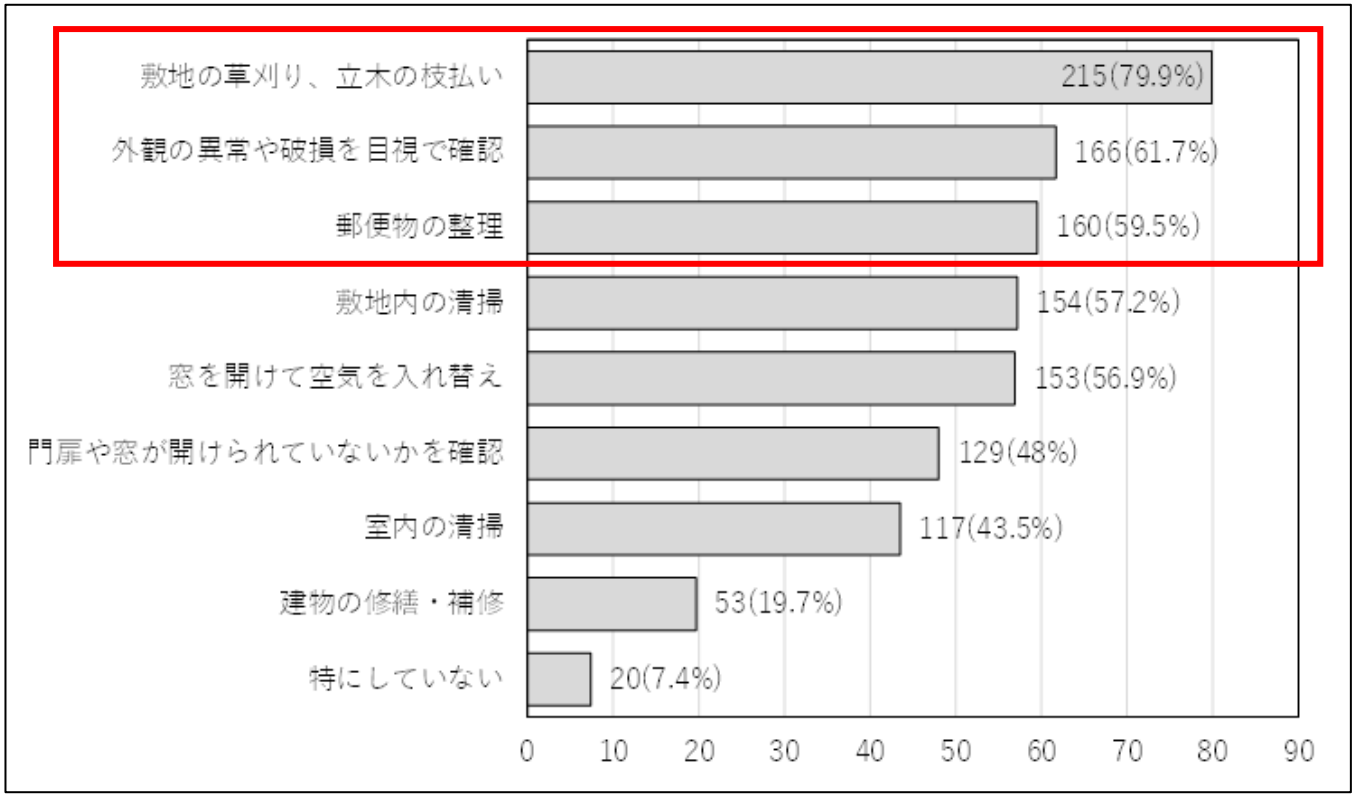


空き家対策の課題について

③　空き家の管理として行っていること（複数回答）

○　「敷地の草刈り、立木の枝払い」が最も多く、次いで空き家を目視で確認、郵便物の整理となっている。

○　多くの所有者は最低限の管理は行っているものの、建物の価値を**維持するための積極的な管理までには至っていない**傾向が見られる。

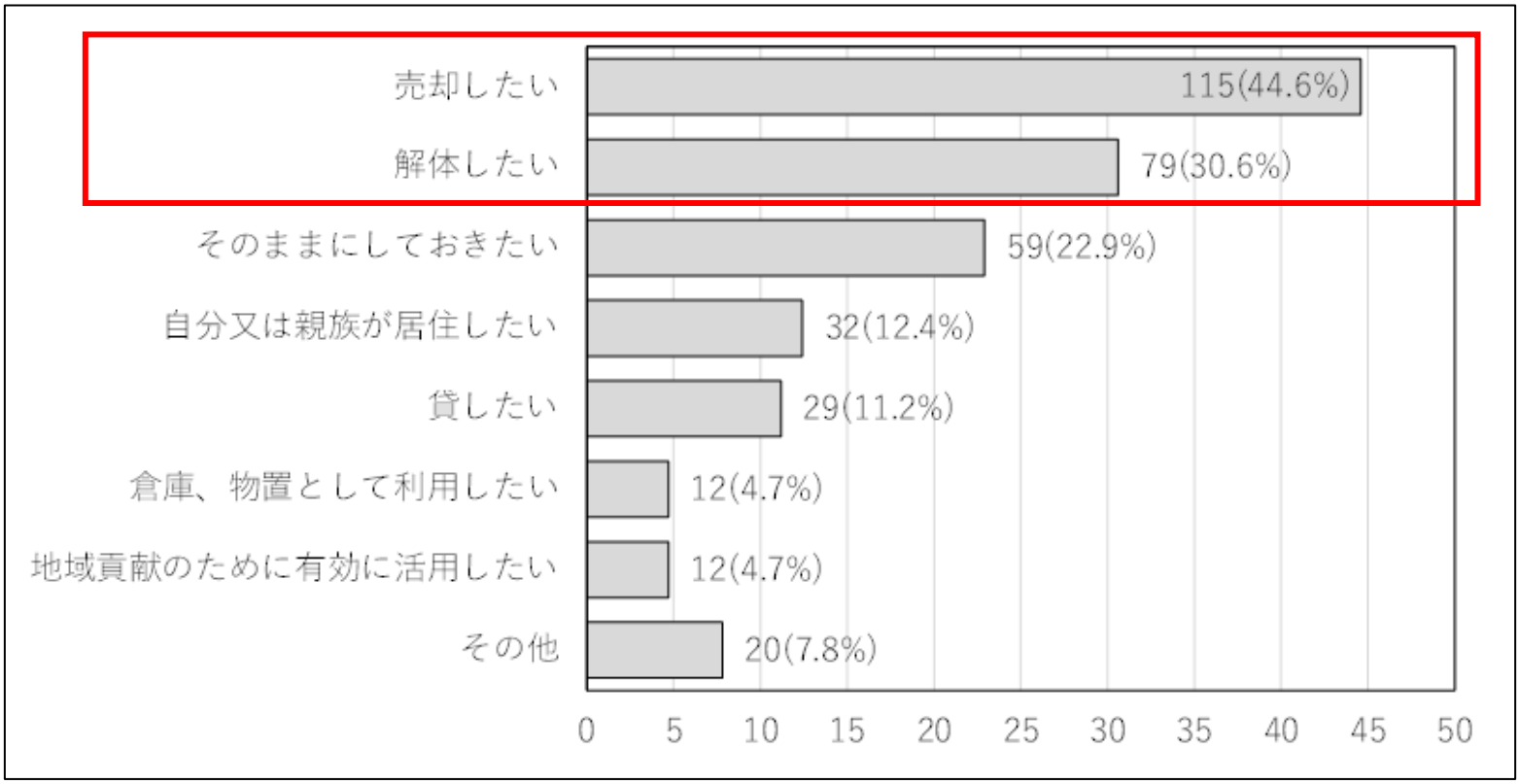


空き家対策の課題について

④　空き家の今後の意向（複数回答）

○　**売却と解体の意向が大部分**を占めている。

○　多くの所有者が空き家の売却や解体を望んでいるが、残置物の処分の困難さや固定資産税の増加などが障壁となっている。

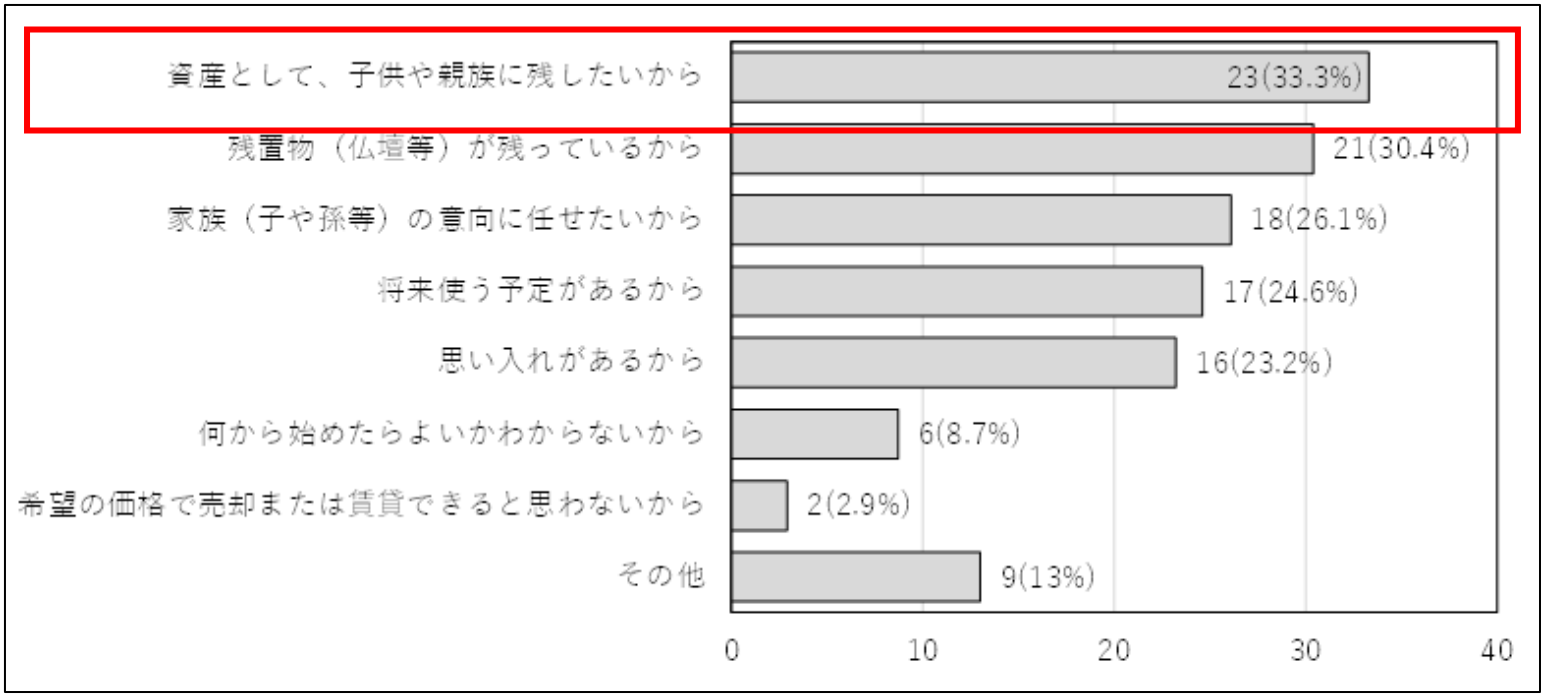


空き家対策の課題について

⑤　空き家をそのままにしておきたい理由

○　「資産として子供や親族に残したいから」が最も多い。

○　親世代と子世代の資産についての考え方の違いがあったり、ぼんやりと今後の管理について考えている所有者が多くみられる。



空き家対策の課題について

●令和８年３月に住生活基本計画を策定
●所有者アンケートなどから具体的取組みを検討した
●具体的取組みの中には、すでに実施している取組みもある

●除却を望んでいても行動に移さない、移せない所有者が多い
●いずれなんとかしたいが先延ばしにしてしまう
●高齢になればなるほど空き家の処分に対して気が重くなる傾向
●親世代と子世代の資産の考え方の違いがあるものの、子世代と話す機会を確保できていない

空き家率を上昇させないためもう一歩踏み込んだ施策の展開
・アンケート調査やセミナーの案内に無反応な所有者に対して
・所有者（将来の所有者）への効果的なアプローチのタイミング